

長野西高等学校全日制では、次の2つについて支援していただきたいと願っています。

1. 国際教養科の英語教育充実のために、外国語指導助手（ALT）3名常駐配置のための支援
2. 「総合的な探究の時間」充実のために、学校地域連携コーディネーター配置のための支援

【目的と活用について】

1. 外国語指導助手（ALT）3名常駐配置のための支援

本校の国際教養科は平成11年（1999年）4月1日に設置され、現在に至ります。本校では、英語圏の文化を学ぶことに主眼を置く「英語科」ではなく、英語圏以外の世界の国や地域の文化や歴史も学ぶことを目的に「国際教養科」という名称にしました。

しかし、英語圏以外の国・地域も「英語」教育に力を入れており、海外との交流には英語力は必須となっています。また、コロナ禍において、対面での国際交流の機会が少なくなり、海外への語学研修も国際情勢の影響を受け、以前ほどに実施が容易ではなくなりました。

そこで、英語のネイティブスピーカーである外国語指導助手（ALT）を常駐で配置し、英語での会話が日常的にできる環境を構築することが必須であると考えています。現状では、ALTは2名配置されていますが、定期訪問校や随時訪問校との兼務により、常駐の環境は整っていません。

願いは、ALTを各学年の国際教養科に配置（計3名）し、ホームルーム活動を含め、英語の授業では、英語科教諭とチームを組んで英語力の向上を図ります。また、海外学校との異文化交流の機会を増やし、双方向の海外留学が容易に実現できる態勢を整えます。さらに、ALTの配置増により、普通科の英語教育もこれまで以上に充実することが可能になると考えています。

一般的に、国際教養科は文系進学にしか対応できないと思われていますが、現代社会の急激な変化に対応するために文理横断的教育（STEAM教育）が求められています。本校の国際教養科は、理系進学（一部の医学部・工学部を除く）が可能な教育課程を開設しています。語学力の向上により、国際教養科の生徒がデータサイエンスや生成AI等の文理横断分野への進路実現も容易になると考えています。

なお、ALTの採用は単年度の支援では難しいため、当面はネイティブスピーカーを招聘した特別講座等の実施にご協力をお願いします。

2. 学校地域連携コーディネーター配置のための支援

本校では、アントレプレナーシップ（起業家精神）を取り入れた「総合的な探究の時間」を実践しています。1年次は、地元の企業・自治体と協力して身近な課題の解決策を少人数のグループに分かれて考案し、事業計画書を作成するプログラムに取り組んでいます。生徒は地元の企業・自治体に教員の手を借りずに自らアポイントメントをとり、取材を行っています。

2年次は、優良な事業計画書については、実際に事業化できるか試みたり、1年次の取り組みによって得られたものから、生徒が各々の探究を深めたりする取り組みを進めます。また、3年次については、1・2年次の取り組みによって得られた成果を自身の進路実現に活かすための取り組みを進めていきます。

学校地域連携コーディネーターには、企業や自治体との連絡・調整、生徒への取材活動のためのアドバイス、教職員への研修、事業計画実現のためのコーディネート、優良な事業計画書の選定等、多岐にわたり、また定期的に活動していただきたいと考えています。このような役割はボランティア活動では成立せず、ある程度の専門性も必要であると考えています。

本校では、これまで経験したことがない予測困難な未来に向けて、グローバルな視点を持って、この地域を舞台に新しい価値観を創出する「グローバルリーダー」の育成を目指すことを目標にしています。この目標の実現には、生徒の「当事者意識」の涵養が不可欠であると考えます。

学んでほしい知識・技能が多い現代において、「なぜ、学ばなければならないのか」を考える大切な機会となる「総合的な探究の時間」での本校の取り組みにより、生徒が真の「グローバルリーダー」に成長できる土台を構築できるものと考えています。